

湘南海岸に漂着したゴバンノアシの果実

浜口 哲一

Tetsuichi Hamaguchi: Stranded Fruits of *Barringtonia asiatica* in Shonan Beach,
Kanagawa Prefecture

はじめに

平塚市博物館では、1990年から漂着物を拾う会を定期的に催し、市内虹ヶ浜海岸を中心に漂着物の観察と収集を行ってきた。漂着物の中からは、稀ではあるが、南方から黒潮によって運ばれて来た果実が発見されることがある。1994年および2000年に、同会の参加者によって、代表的な海流散布植物であるゴバンノアシ *Barringtonia asiatica* の果実が合計3例記録されたので報告する。記録の発表を許された関口葉、片倉義人、霜島淳子の各氏に感謝する。

湘南海岸での漂着記録

ゴバンノアシの果実は、1辺が7～8cm程度の丸みを帯びた四角錐をしており、その形状が基盤の脚に似ることから和名がつけられている。類似した種はなく、同定は容易である。

表1に平塚市および大磯町の海岸での漂着記録を示した。漂着が記録された季節はいずれも夏季であり、台風や低気圧の影響で強い南風が吹いた後に発見された。

1例目と3例目(図2)は、外果皮がほぼ剥がれ落ちて、繊維質の中果皮が現れており、長時間の漂流を示す状態のものであった。2例目(図1)は、それらにくらべると、外果皮がよく残されていたが、尖った方の表面にはコケムシ類が付着してコロニーを作っており、その存在が外果皮を保護する結果になったのかもしれない。

なお、これらの標本は、いずれも平塚市博物館に収蔵されている。

相模湾での漂着記録

渡辺(2000)は、三浦半島沿岸での漂着記録として、1996年から1999年の間の合計9例を報告している。その漂着地点は、横須賀市長浜、同芦名、同黒崎、葉山町一色、逗子、鎌倉市稲村ヶ崎の各海岸である。湘南での記録を合わせると、1994年以来、ほぼ毎年1～2例の漂着記録があることになり、本種は相模湾まで定期的に流れ着いていると考えられる。

全国での漂着状況

ゴバンノアシは、ココヤシ・モダマなどと並んで代表的な海流散布植物であり、大きくてしかも特異な外形によってよく知られているので、各地から報告されている。その漂着記録の日本列島での北限は、太平洋側では千葉県、日本海側では秋田県である(中西, 1999)。本種は、東南アジアから南太平洋の島々に広く分布し、台湾南端部以南では海岸林を形成している(中西, 1999)。しかし、我が国では八重山諸島の石垣島、西表島に僅かに自生が見られるものの、その個体数は少ない。八重山諸島での漂着果実を報告した中西(1983)は、ゴバンノアシの果実が普通に漂着しているのに、自生個体が非常に稀なことから、果実はさらに南方の島々から漂着したものと推定している。

表1. 湘南海岸におけるゴバンノアシ果実の漂着記録

	年月日	場所	発見者	標本番号
1	1994年9月10日	平塚市虹ヶ浜	関口 葉	HCM-56-87101
2	2000年6月9日	大磯町大磯海岸	片倉義人	87102
3	2000年8月30日	平塚市虹ヶ浜	霜島淳子	87103

今回報告した3例も、おそらく南西諸島よりも南方から漂着した可能性が高いと考えられ、黒潮がそうした植物の果実を長距離にわたって運搬している証拠の一つと考えることができる。

文 献

中西弘樹, 1983. 八重山諸島における漂着果実と種子. 植

物地理・分類研究, 31(1): 22-30.

中西弘樹, 1999. 漂着物学入門. 211pp. 平凡社, 東京.

渡辺政美, 2000. 流れ着いた熱帯系植物の種子・果実—南の島からの黒潮便—. 潮騒だより, (11): 9-10. 葉山しおさい博物館.

(平塚市博物館)



図1. 2000年6月9日の漂着果実.



図2. 2000年8月30日の漂着果実 (左下は10円玉).